

ニットクの屋根用遮熱塗料 パラサーモシリーズ 標準色見本帳

【初版】



2液型弱溶剤フッ素樹脂塗料

パラサーモF

2液型弱溶剤シリコン樹脂塗料

パラサーモSi

2液型弱溶剤ウレタン樹脂塗料

パラサーモU



標準色

●「パラサーモF」と「パラサーモSi」は全色(22色)からお選びいただけます。 ●「パラサーモU」は⑧~⑳の15色よりお選びください。

「パラサーモF」「パラサーモSi」標準色(22色)



①エコホワイト




②エコライトグリーン




③エコライトグレー




④エコライトブルー




⑤エコソフトグレー




⑥エコサンドベージュ




⑦エコベージュ


「パラサーモU」標準色(15色)



⑧エコリッチレッド




⑨エコブリックレッド




⑩エコグレー




⑪エコガーネットレッド※




⑫エコマウスグレー




⑬エコスレートブラウン




⑭エコチェスナット




⑮エコクラウドグレー




⑯エコマリンブルー




⑰エコグラスグリーン※




⑱エコココナッツ




⑲エコスレートブラック




⑳エコオリーブ※




㉑エコブラック




㉒エコディープブルー


※  印はクールランクを表します。4ページの特長⑦の表をご参照ください。

- 色見本は、経時変化により変色しますので、直射日光の当たる場所や高温多湿の場所には保管しないでください。
- 広い面積に塗られた場合、見本帳のカラーチップと多少違って見える場合があります。
- 品種により、標準色に含まれない色や対応できない色があります。
- 品種により、同じ色名でも色相および仕上り外観(艶)などに多少の相違がある場合があります。ご了承ください。
- この色見本は紙に塗装しておりますので、実際の仕上りとは多少の色違いが生じる場合があります。ご了承ください。
- 特殊な顔料を使用しておりますので、膜厚や標準以上の希釈量では色目は少し変わります。ご注意ください。
- 色相により、遮熱効果が異なりますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所までお問い合わせください。

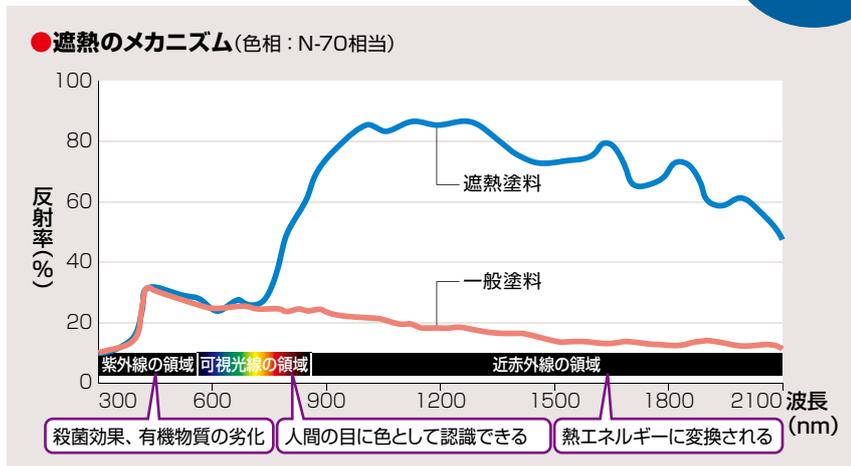
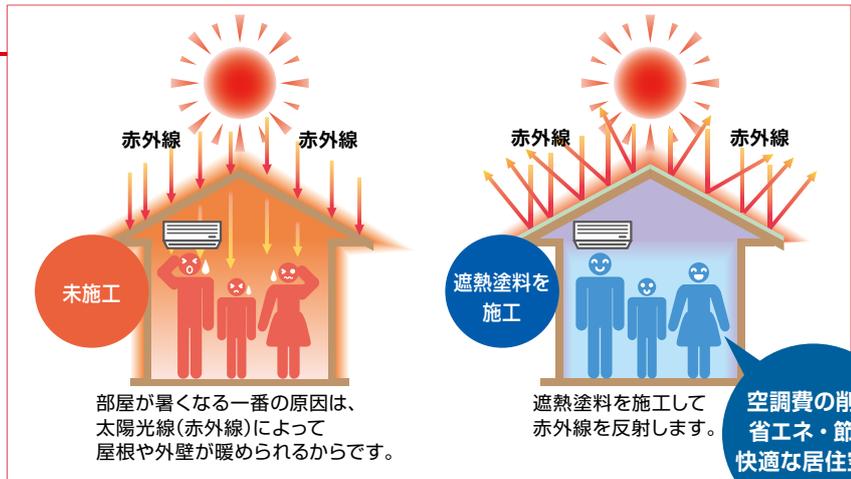
※印の標準色(3色)は割高(2~3割程度)になります。

●本色見本帳のPDF版をカラー出力された場合、この色見本帳に掲載しています標準色とは著しく色の相違があります。PDF版のカラー出力やパソコンのモニターをご覧になってのご注文は、お受けできません。標準色の指定、選定、ご注文は必ず現物の色見本帳をお願いします。

発売から20年以上の実績。
航空機用塗料で培った独自技術でさらなる性能アップを実現。
高反射・高耐久の「パラサーモ」シリーズ。

特長
1 遮熱と断熱

太陽光中の赤外線は物体にあたることで、熱エネルギーとなり物体をあたためます。「パラサーモ」シリーズの遮熱塗料は特殊顔料を用いることで赤外線を反射し熱エネルギー変換を抑制し屋根の温度上昇を小さくします。さらに、中空バルーンを含む断熱塗料を組み合わせることで透過した赤外線による熱エネルギーをさらに遮断できます。詳細は「パラサーモシールド」カタログをご参照ください。



特長
2 優れた遮熱性

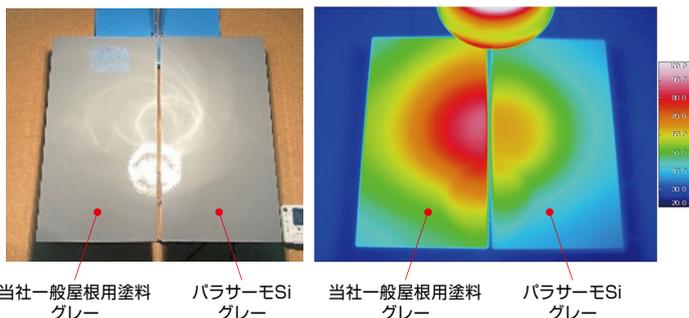
太陽光に対する反射率に優れた着色顔料と熱放射率に優れたセラミックを当社独自の技術を融合。各屋根材に施工することにより、室内への熱の侵入を遮断し、温度上昇を抑えることができます。

●**ご注意**：施工予定の色より既存塗膜が淡彩系の場合、遮熱(温度低減)効果が得られないケースもございますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所にご確認ください。

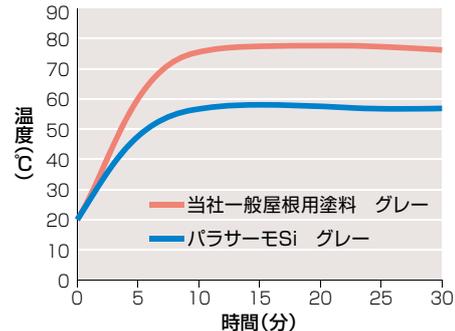
●**遮熱性能試験**

試験室内試験にて当社一般屋根用塗料(グレー)のエポラオールプライマー仕様とパラサーモSi(グレー)エポラオールプライマー遮熱ホワイト仕様を施工した鋼板に200Wレフランプを照射し表面温度と試験板裏面温度を測定しました。表面温度で約20℃、裏面温度で約15℃~17℃の差が生じていることが分かります(試験結果は試験室などの条件により変化します。これらの試験は、遮熱効果を確認する試験であり実現現場での表面・裏面遮熱効果を保証するものではありません)。

●**サーモグラフィーによる温度比較**



●**試験板裏面温度測定**

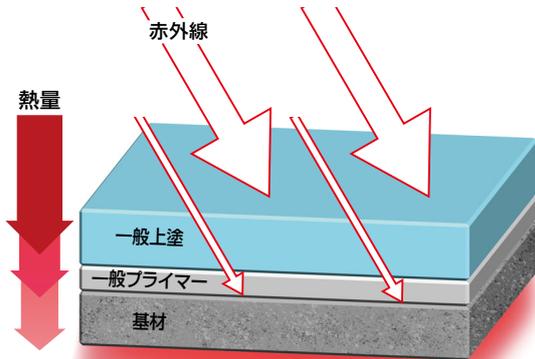


●**基材**：鋼板 ●**ランプ照射距離**：23cm ●**ランプの種類**：レフランプ200W ●**測定時室温**：25℃

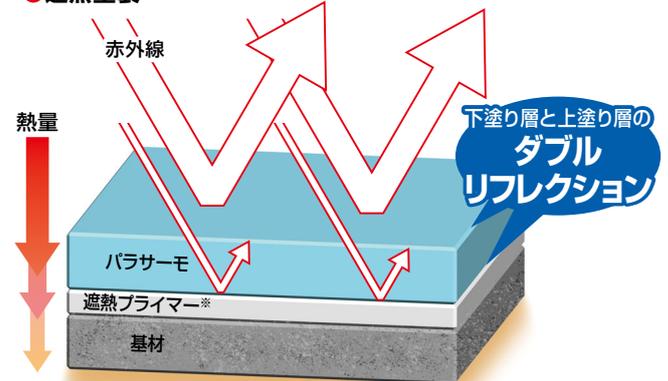
特長
3 **ダブルリフレクションシステム**

赤外線を遮熱上塗りで反射し、さらに、遮熱プライマー層で近赤外線を反射するダブルリフレクションシステムによりさらなる遮熱効果が期待できます。

●一般塗装



●遮熱塗装



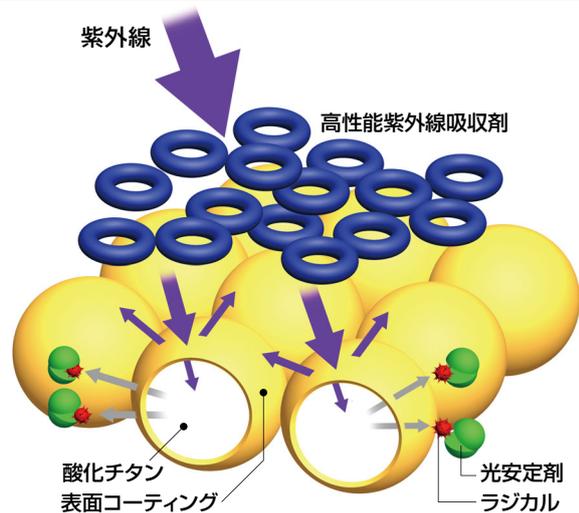
※エポラオールプライマー遮熱ホワイト

特長
4 **独自のラジカル制御で高耐久化を実現**

●ラジカル制御とは

ラジカルとは塗膜中の酸化チタンや樹脂に紫外線や酸素、水分が当たることによって発生する活性種で、樹脂を破壊して塗膜の劣化を促進させます。

パラサーモシリーズは航空機用塗料で培った独自の技術により、ラジカルの発生原因である紫外線の大半を高性能紫外線吸収剤で吸収し、すり抜けた微量の紫外線によって発生したラジカルは光安定剤で捕捉して無害化する二段階のラジカル制御技術を組み込んでいます。また、酸化チタンは、紫外線から防御する表面処理がなされており三段階制御技術を採用しています。

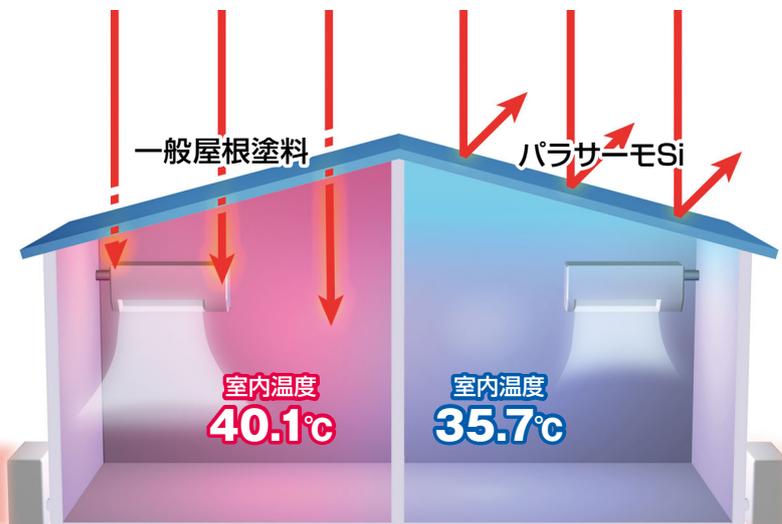


特長
5 **省エネ効果**

シミュレーションは、一般塗料からパラサーモで屋根を塗り替えた場合の室内温度低減効果や冷房負荷低減、冷房削減効果、CO₂排出量削減効果を計算・シミュレートするシステムです。

- シミュレーションDATA：東京地区
- 屋根材：カラー鋼板0.8mm
グラスウール断熱材 5mm
- 外壁材：サイディングボード12mm
石膏ボード12mm
- 屋根面積：1,000㎡ 室内容積8,000㎡
- 床面積：1,000㎡
- 設定温度26℃
- 冷房稼働10時間
- 窓無し 等の条件
- SMASH使用

●シミュレーションイメージ (パラサーモSi ライトグレー)



冷房費 **51万8000円/年削減***
CO₂排出量 **15,969kg/年削減***

※値はシミュレーション結果です。実際の環境や建物構造、部材などの条件により結果は異なります。

特長
6

耐久性

屋根は太陽光の紫外線を一番多く受ける部位であり、耐久性が求められます。屋根用塗料には過酷な環境で耐えうる航空機用塗料の技術を用い、雨や雪、強風下で抜群の耐久性を発揮します。



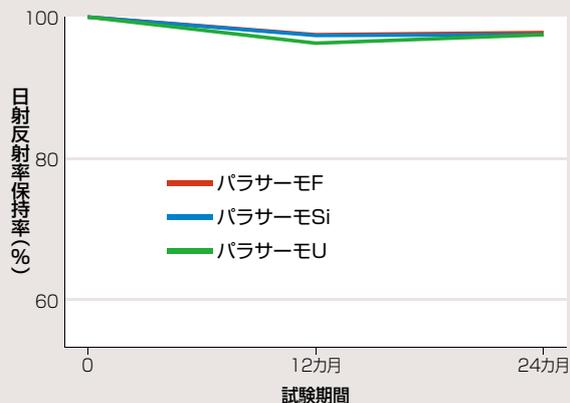
▲屋外曝露試験状況



長期的に日射反射率を保持

●日射反射率保持率実暴露試験結果

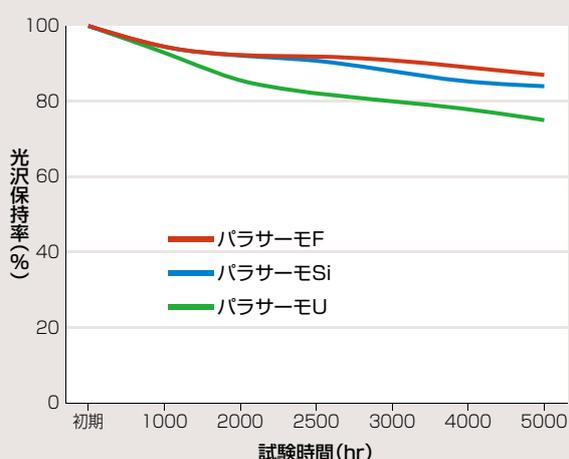
千葉県銚子市試験場での暴露データ(24ヶ月)



初期の塗膜と比較して、経時とともに汚れの付着や塗膜の劣化などの要因によって、どの程度遮熱性能が変化するかを確認する試験。

高い光沢保持率

●促進耐候性試験結果(キセノンランプ法)



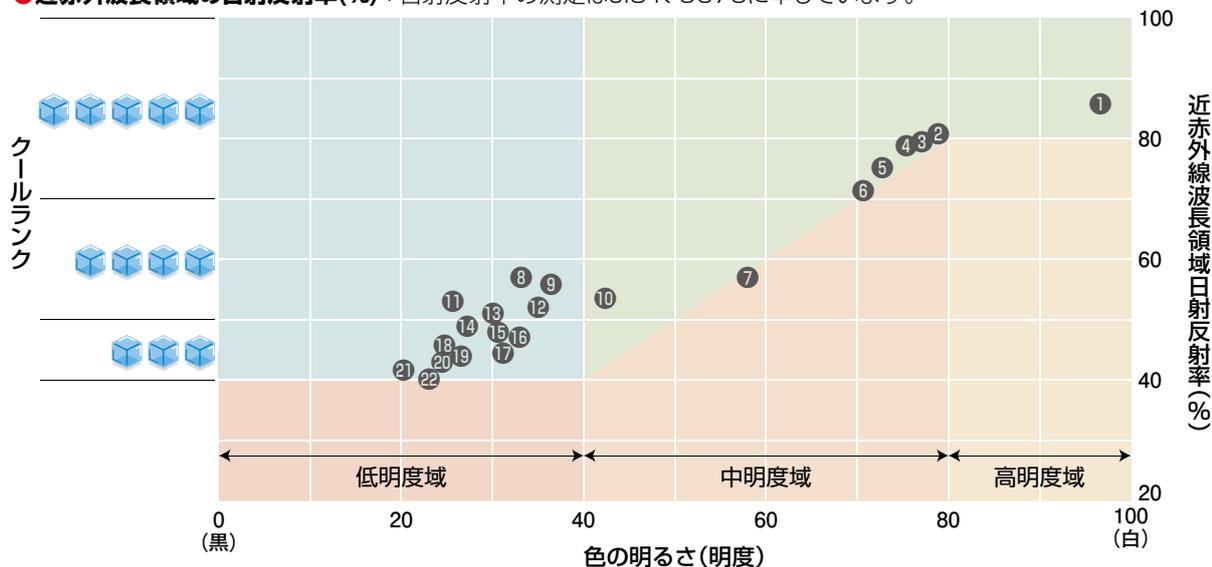
●試験方法：JIS K 5600-7-7準拠 ●放射照度：60W/m²

特長
7

色の明るさ(明度)と日射反射率の関係

遮熱塗料は、色の明るさ(明度)によって日射反射率は変わります。建物の外観を考慮し、22色(パラサーモUは15色)からお選びください。

●近赤外線長波領域の日射反射率(%)：日射反射率の測定はJIS K 5675に準じています。



※スーパーパラサーモシリコンのグラフとは異なります。

推奨仕様フローチャート(一般窯業系および一般金属系)

一般窯業系屋根材

薄形化粧スレート瓦 (カラーベスト、コロンアルなど)

メーカーにより形状もさまざま
で名称も異なりますが、厚みがら
~10mmの薄形のスレート瓦です。
軽量でバリエーションも豊富なた
め、広く普及している屋根材です。



▲カラーベスト

厚形スレート瓦



セメントと化学繊維をプ
レス成形した瓦です。和
形、洋形さまざまな形状
があります。

波形スレート



工場や倉庫の屋根などに多く使われ
ている屋根材です。

※新設には施工できません。
※ノンアスベストの波形スレートの場合は最
寄りの営業所までお問い合わせください。

一般金属系屋根材

カラー鋼板

金属屋根素材に焼き
付け塗装されている
ものが一般的です。

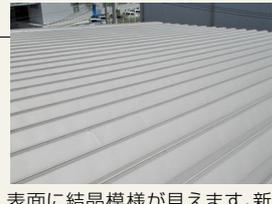
※フッ素鋼板の場合は最
寄りの営業所にお問い合わせ
合わせください。



無塗装ガルバリウム鋼板



▲表面拡大



表面に結晶模様が見えます。新
設の場合には表面の脱脂と目
粗しが必要でです。

※無塗装ガルバリウム鋼板へのご使用については、最寄りの営業所にお
問い合わせください。

吸い込みあり

吸い込みなし

カラータン

ステンレス鋼板
ガルバリウム鋼板
アルミニウム板

ダブル
リフレクション
システム

エポラ浸透
遮熱プライマー

エポラマイルドプライマー-S

ダブル
リフレクション
システム

エポラオールプライマー
遮熱ホワイト

エポラオールプライマー

下塗り

ダブル
リフレクション
システム

エポラオールプライマー
遮熱ホワイト
エポラ#1遮熱プライマー

エポラオールプライマー
NT金属用プライマー-ECO
エポラ#1プライマー-N

ダブル
リフレクション
システム

エポラオールプライマー
遮熱ホワイト

エポラオールプライマー
NT金属用プライマー-ECO
エポラ#3プライマー

製品構成

品種	製品名	色	荷姿・容量	成分組成
上塗り	バラサーモF	22色※④	16kgセット(A液:14kg B液:2kg)※①	2液弱溶剤フッ素樹脂
	バラサーモSi	22色※④	16kgセット(A液:14kg B液:2kg)※①	2液弱溶剤シリコン樹脂
	バラサーモU	15色※④	16kgセット(A液:14kg B液:2kg)	2液弱溶剤ウレタン樹脂
窯業用金属用 下塗り	エポラオールプライマー	遮熱ホワイト※②	16kgセット(A液:14kg B液:2kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂(遮熱タイプ)
		グレー、赤サビ、黒サビ	4kgセット(A液:3.5kg B液:0.5kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂
窯業用下塗り	エポラ浸透遮熱プライマー	淡グリーンクリアー	16kgセット(A液:14kg B液:2kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂(遮熱タイプ)
	エポラマイルドプライマー-S	クリアー	28kgセット(A液:14kg B液:14kg) 14kgセット(A液:7kg B液:7kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂
金属用下塗り	エポラ#1遮熱プライマー	淡ブルー	16kg	1液弱溶剤エポキシ樹脂(遮熱タイプ)
	エポラ#1プライマー-N	グレー	16kg	1液弱溶剤エポキシ樹脂
	エポラ#3プライマー	白	16.5kgセット(A液:15kg B液:1.5kg)	2液溶剤エポキシ樹脂
	NT金属用プライマー-ECO	赤サビ	16.5kgセット(A液:15kg B液:1.5kg) 3.3kgセット(A液:3kg B液:0.3kg)	2液溶剤エポキシ樹脂
特殊下塗り	塩ビ鋼板用プライマー	茶色	12.6kgセット(A液:12kg B液:0.6kg)	2液溶剤特殊ウレタン樹脂
希釈剤	NT塗料用シンナー-A	—	16ℓ	—
	エポラ#3シンナー	—	16ℓ、4ℓ	エポラ#3プライマー用
	NTエポキシシンナー-ECO	—	16ℓ、4ℓ	NT金属用プライマー-ECO用
硬化促進剤	弱溶剤トップ硬化促進剤※③	—	1kg	上塗り用硬化促進剤
特殊添加骨材	PSパウダー	—	16kg(4kg×4袋)	エポラオールプライマー厚膜仕様用 特殊セメント骨材

※①: B液には「猛暑型B液」もあります(35℃以上の場合)。
※②: 遮熱タイプのため割高になります。

※③: 弱溶剤トップ硬化促進剤をご使用の際は、各々の上塗りA液14kgに対して100g添加して、よく攪拌した
後、B液を混合、攪拌してください。

※④: 特注色につきましては最寄りの営業所にお問い合わせください。

●2液の塗料を調合する際は、製品容量の重量を調合比としてください。

標準塗装仕様

●上塗りの塗装仕様

工程	製品名	調合 (重量比)	塗り 回数	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ² /回)	1回当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)	希釈剤 (希釈率%)
上塗り	パラサーモF	A液 14kg B液 2kg	2回	●ローラー ●刷毛 ●スプレー	6時間以内	0.13~0.16	100~123 m ² /セット	3時間以上 72時間以内	●NT塗料用シンナーA (0~5%)
	パラサーモSi								
	パラサーモU								

●パラサーモF、パラサーモSi、パラサーモUをスプレーで施工する場合の希釈は16kgセットに対して0~2kgとしてください。

●上塗りの各塗料は、夏場、暑さで可使時間が短くなり「2時間」程度になります。夏場はA液とB液の攪拌後、必ず「2時間以内」に使い切るようにしてください。

●パラサーモF、パラサーモSiは、35℃以上の場合、「猛暑型B液」をご使用ください。

●冬季は硬化を速めるために弱溶剤トップ硬化促進剤を使用することも可能です。使用方法は、上塗A液14kgに対して、弱溶剤トップ硬化促進剤100g、秤で計量し添加後、攪拌します。続いてB液を配合し、電動攪拌機で充分に攪拌してご使用ください。

●窯業系下地(新生瓦、スレート屋根など) 金属屋根下地(折板、瓦棒、トタンなど)屋根塗替仕様

工程	製品名	調合 (重量比)	塗り 回数	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ² /回)	1回当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)
窯業系 下地調整	●表面の塵、ホコリ、コケや既存塗膜の浮き、ハガレなどは、高圧水洗浄やワイヤーブラシなどで完全に除去してください。 ●水洗い後は充分に素地を乾燥させてください。							
金属系 下地調整	●フクレ、割れ、浮きなどの劣化塗膜はケレン工具を用いて除去してください。 ●サビは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、被塗面を清掃してください。 ●被塗面の表面の塵、ホコリ、油脂類はシンナーや高圧水洗浄などで完全に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。							
下塗り	●エポラオールプライマー 遮熱ホワイト	A液 14kg B液 2kg	1回	●ローラー ●刷毛 ●スプレー	6時間以内	0.13~0.16	100~123 m ² /セット	3時間以上 72時間以内
上塗り	●上塗りは別表「製品構成」よりお選びください。							

●エポラオールプライマーは多少の吸い込みに対応できるように顔料を少なく設計しています。このため、施工方法や使用量、希釈量、下地の状態によりムラに見える場合があります。特に窯業系下地で塗料が下地に多く吸い込まれる場合、隠ぺい性が悪くなります。

●新生瓦やスレート屋根の重なり部分は縁切りを行ってください。漏水の原因となります。

●塗料粘度が上昇する冬季や、乾燥が著しく速い猛暑時で塗りにくい場合は、NT塗料用シンナーAを5%以内を目安にご使用ください。

●金属屋根の補修塗り、下塗りには1液タイプの「エポラ#1プライマーN」もご使用いただけます。

●金属屋根の折り曲げ部、凸部などは、塗膜が薄くなりがちです。事前に補修塗りを行ってください。

●ガルバリウム鋼板の補修塗り、下塗りには「エポラ#3プライマー」 「NT金属用プライマーECO」もご使用いただけます。

●新設のガルバリウム鋼板は油分が付着している場合がありますので、脱脂と目粗しを行ってください。

●無塗装ガルバリウム鋼板へのご使用については、最寄りの営業所にお問い合わせください。

●窯業系下地(新生瓦、スレート屋根など) 屋根塗替仕様(下地の吸い込みが多い場合)

工程	製品名	調合 (重量比)	塗り 回数	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ² /回)	1回当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)
下地調整	●表面の塵、ホコリ、コケや既存塗膜の浮き、ハガレなどは、高圧水洗浄やワイヤーブラシなどで完全に除去してください。 ●水洗い後は充分に素地を乾燥させてください。							
下塗り	●エポラ浸透遮熱プライマー	A液 14kg B液 2kg	1回	●ローラー ●刷毛 ●スプレー	6時間以内	0.15~0.3	53~106 m ² /セット	3時間以上 72時間以内
上塗り	●上塗りは別表「製品構成」よりお選びください。							

●使用量が多い場合、乾燥が遅くなります。指触乾燥していることを確認して上塗りを施工してください。

●エポラマイルドプライマーSもご使用いただけます。仕様は上記仕様と同じです。

●塩ビ鋼板屋根塗替仕様

工程	製品名	調合 (重量比)	塗り 回数	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ² /回)	1回当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)
下地調整	●高圧水洗浄(10~15MPa)やワイヤーブラシなどで表面の塵、ホコリ類を完全に除去してください。 ●水洗い後は充分に素地を乾燥させてください。							
下塗り	●塩ビ鋼板用プライマー	A液 12kg B液 0.6kg	1回	●ローラー ●刷毛	—	0.1~0.12	105~126 m ² /セット	2時間以上 6時間以内
上塗り	●上塗りは別表「製品構成」よりお選びください。							

●下地のチョーキング塗膜は高圧水洗浄で除去してください。チョーキングが激しい場合、洗浄ができない場合はマジックロンなどでチョーキング膜を除去してください。

●下塗りはローラーでのごくように施工してください。しごいて施工することでチョーキング塗膜を溶解・復元し、プライマーに混合させます。

●下塗りは厚く塗りすぎないように使用量を厳守してください。塗料のたれ、たまりは剥離の原因となります。

●下塗りと上塗り1回目までは同一日に施工してください。施工間隔を延長しますと上塗りとの密着が悪くなります。下塗りとの施工間隔を厳守してください。

●外気温が30℃以上の場合は、1時間以内に上塗りを施工してください。

ニットの屋根用遮熱塗料パラサーモシリーズ施工上の注意事項

遮熱性能について

- 遮熱性能は、明度と色相により変わります。既存塗膜の色が塗り替え予定の色より薄い場合、遮熱効果が得られない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 建物の形状、構造、基材（素材）や既存塗膜の明度と色相によっては十分な遮熱効果が得られず室内温度低減効果が期待できない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。

- 無塗装ガルバリウム鋼板は、素材自体が優れた熱反射性を持っています。無塗装ガルバリウム鋼板へのご使用については、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 一般屋根用塗料とニットの屋根用遮熱塗料パラサーモシリーズの日射反射率の差は、濃色の同色であると大きくなる傾向があります。色相により、一部例外があるため、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 遮熱効果は、塗膜上に汚れが堆積すると遮熱性能が低下し

ます。他にも立地環境や建物の屋根材の種類、屋根勾配、構造などが起因する場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。

● 遮熱塗料の全面施工と部分施工では遮熱効果が異なります。部分施工では未塗装部分が影響し遮熱効果が得られない可能性がありますので、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。

下地調整について

- ① 高圧水洗浄やスプレー施工では、周辺の状況をよく確認し十分に養生を行ってください。
- ② 高圧水洗浄（10MPa以上）ができない場合はホースで水を流しながらワイヤーブラシなどを用いて塵、ホコリ、藻、コケ、かび類を完全に除去してください。
- ③ 水洗い後は1日以上乾燥させてください。各工程では、雨や露などで濡れている場合は十分に乾燥させてから施工してください。

- ④ 油分が付着している場合は溶剤拭きを行ってください。
- ⑤ 洗浄後、瓦の破損、役物の釘浮きなどの確認を行い、補修が必要な場合は適切に処理してください。
- ⑥ 発錆部は、ワイヤーブラシやサンドペーパー、電動工具などで入念にサビを除去し、時間をあけずに金属用プライマーを拾い塗りしてください。

- ⑦ 改修工事の場合、既存塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、既存塗膜を侵しリフティング（塗膜のチヂレ）やフクレが発生する場合がありますので、既存塗膜を必ず確認の上で塗装仕様を決定してください。塗装仕様については、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- ⑧ 素地の種類が不明な場合は、下塗り塗料の選定および試験施工を行ってください。

塗料と施工について

- ① 標準塗装仕様はあくまで「標準」的な仕様であり、素地の状態、形状、施工条件、気象条件などにより使用量や可没时间など多少幅を生じることがあります。
- ② 施工当日から施工後翌日までに降雨、降雪が予想される場合や気温5℃以下、湿度80%以上での施工は避けてください。塗膜が未乾燥状態で降雨や夜露などにあたると艶引けや白化などの原因につながります。特に冬季は乾燥に時間がかかりますので、乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。気温が5℃以上で、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がかかりますので施工間隔が変わります。
- ③ 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに施工を終了し、十分に乾燥時間を確保してください。光沢低下、フクレ、割れ、ハガシの原因になります。
- ④ 金属素地が見えている場所や、サビが生じている場所は、ケレン後、各種金属に適合したプライマーを施工してください。
- ⑤ 無石綿スレート板に施工する場合は、反りやひび割れ、フクレなどが発生する場合があります。
- ⑥ 本製品はいぶし瓦、粘土瓦（素焼き瓦、いぶし瓦、釉薬瓦など）への施工はできません。モニエル瓦、スカンジア瓦などの乾式瓦は専用プライマーをご使用ください。
- ⑦ 本製品は、塩ビ鋼板や乾式コンクリート瓦などにもご使用いただけます。専用プライマーがありますので最寄りの営業所にお問い合わせください（ただし、これらの仕様は当社の特別講習を受講された方への限定工法となります）。
- ⑧ 塗料は必ず規定割合比で割合し、電動攪拌機などで十分に攪拌してから施工してください。
- ⑨ 本製品以外の他の塗料との混合は絶対に行わないでください。また、アルコールや水の混入は絶対に避けてください。
- ⑩ パラサーモUやパラサーモSi、パラサーモF、エポラ#1プライマーN、エポラオールプライマーの希釈は「NT塗料用シンナーA」をご使用ください。
- ⑪ パラサーモシリーズは特殊顔料を使用しているため、塗料表面に色が浮きやすい傾向があります。十分に攪拌してご使用

- ください。
- ⑫ 塗料を小分けして使用する場合はA液を十分に攪拌して均一の状態にしてから分けてください。色ムラなどの原因となります。
- ⑬ 塗装仕様の使用量が塗られていない場合、本来の塗膜性能が発現しないことがありますので規定量を守って施工してください。早期の耐候性低下や変色、剥離などにつながります。
- ⑭ 上塗りの希釈量や使用量が多すぎたり、少なすぎたりしても、色相が変化して見えることがあります。特に上塗り1回でも使用量が変化し、色相が変化して見えます。同様に、希釈剤の希釈量や使用量が施工部位により変わると、色相が変化して見えることがあります。
- ⑮ 冬季には、パラサーモの硬化を速めるために弱溶剤トップ硬化促進剤を使用することも可能です。弱溶剤トップ硬化促進剤を使用すると可没时间が短くなります。ただし、攪拌不足の場合、塗膜の硬化が場所によって異なり不具合が発生することがあります。弱溶剤トップ硬化促進剤は、次工程までの施工間隔を短縮する目的で使用しないでください。
- ⑯ 本色見本帳の仕様では上塗りの可没时间を「6時間以内（23℃）」としていますが、夏季は暑さで可没时间が短くなり、2時間程度になることもあります。夏季はA液、B液の攪拌後、必ず2時間以内に使い切るようにしてください（35℃以上の場合は「猛暑型B液」をご使用ください）。
- ⑰ 夏季、炎天下でアレスホース内に塗料を入れたまま放置しないでください。詰まりの原因となります。
- ⑱ 各工程において、硬化が不十分な状態で施工するとリフティング（塗膜のチヂレ）を起こす場合があります。
- ⑲ 瓦葺や波形トタン屋根などに施工する場合、山の部分や折り曲げ部分などは塗料がつかないため、十分な膜厚を確保することができない可能性があります。先に拾い塗りをするなどして全体的に均一な膜厚になるよう施工してください。
- ⑳ 上塗り1回目の施工後、置換泡が発生することがあります。プライマーを2回施工することで、置換泡を抑制することがで

- きます。また、上塗り1回目の施工で置換泡が発生した場合は、乾燥前にローラーで表面を軽く押さえることで対策することも可能です。
- ㉑ ローラーや刷毛、スプレーなど施工方法が混在する場合、使用量、表面肌などが異なることで若干色相や仕上がりに差が出る場合があります。
- ㉒ ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように行ってください。ローラー目の方向により色や仕上がりが異なって見える場合があります。
- ㉓ 標準色以外をご指定された場合、褪色が早い場合や、塗膜性能が低下する可能性があります。
- ㉔ 本製品は、特殊顔料を使用していますので、経年劣化による褪色の傾向が一般塗料と異なる場合があります。経年で若干、赤味を帯びることがあります。
- ㉕ シーリング面の施工は極力避けてください。塗膜の汚れや割れの原因となります。
- ㉖ 使用器具は、使用後すみやかにラッカーシンナー（もしくはウレタンシンナー、アクリルシンナー）で洗浄してください。
- ㉗ 屋根材の重なり部分に塗料がたまりると漏水の原因になりますので、必ず縁切りを行ってください。
- ㉘ 施工後の塗膜は滑りやすくなりますので、作業は充分注意して行ってください。施工後は、滑雪性がよくなる場合があります。積雪時にまとまった雪が落ちる可能性がありますのでご注意ください。
- ㉙ 「スーパーパラサーモシリコン標準色見本帳」[省エネ屋根用遮熱・断熱・防音塗料]パラサーモシリーズ「エポラオールプライマー」[エポラ浸透遮熱プライマー]「エポラ#1遮熱プライマー」[塩ビ鋼板塗装工法カタログ]などの詳細は個別カタログをよくお読みになり正しくご使用ください。ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- ㉚ 塗料は用途・用法を守り、上述カタログの仕様や注意事項をよくお読みになり正しくご使用ください。

取り扱い上の注意事項

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合ABC粉末消火器など適切な手段を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中は皮膚に触れないようにし、有機溶剤の蒸気を吸わないよう必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器（取っ手を含む）はつり上げてください。止むを得ずつり上げる際には、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください。荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります。
- 取り扱い後は洗顔、手洗いおよびうがいを充分に行ってください。
- 目に入った場合は多量の水で少なくとも5分以上洗い、すみやかに医師の診察を受けてください。

- 誤って口に入った場合は、口を水でよくすすぎ、すみやかに医師の手当てを受けてください。飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着した場合は、多量の水で洗い流したのち中性石鹸と水で充分に洗ってください。痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。作業着などに付着した場合は、すみやかに着替えを行ってください。
- エポキシ樹脂系塗料は体質により皮膚障害などの感作を受ける場合があります。医師の指導を受け必要な措置を講じてください。
- 皮膚障害、呼吸障害がみられる場合は、医師の診断を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 本製品の保管は必ずフタをし、雨露や直射日光の当たらない換気の良い冷暗所に保管してください（水系塗料は凍結を避けてください）。現場で材料を保管する場合は、直射日光や雨露が当たらない、風通しの良い涼しい場所で保管してください。特に夏季に車内での保管や高温になる場所での保管は危険ですので避けてください。

- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使い切ったから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 本製品は環境に配慮した状態を用いていますが、ご使用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 本製品は、揮発性の化学物質（有機溶剤など）を含有し、臭気が発生します。あらかじめ元請や施工、近隣住民への説明を行い、了解を得てください。臭気が周辺にある物に付着する場合があります。付着が予想されるものは、施工箇所からできるだけ遠ざけ、屋内に揮発成分が流入しないように養生を行ってください。また、化学物質過敏症やアレルギー体質の方がいる場合には必ずお読みになり正しくご使用ください。
- 本製品は危険物です。消防法や労働安全衛生法などの適用法令に従って保管してください。また、輸送時も消防法や道路運送車両法、船舶安全法、港則法などを遵守してください。
- 本製品の取り扱い、保管については、労働安全衛生法など各種法令を遵守してください。
- 製品をご使用の際は、必ず、警告ラベル、安全データシート（SDS）をご参照ください。

* 製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。
* 本記載の仕様は標準仕様です。施工条件により、施工間隔などは変化します。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

日本特殊塗料株式会社

お問い合わせ先

- 東京営業所 〒114-8584 東京都北区王子3-23-2 ☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323
- 神奈川営業所 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10 ☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739
- 中部営業所 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12 ☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124
- 大阪営業所 〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12 ☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560
- 中四国営業所 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13 ☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256
- 九州営業所 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726 ☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762

塗装仕様等、使い方の詳細情報は
こちらをご確認ください。
設計・工事監理者および工事請負
者は、必ずご確認ください。

